

イネカメムシの大発生が懸念されます

河宇
地域

～ 今年には本当に危険！ ～

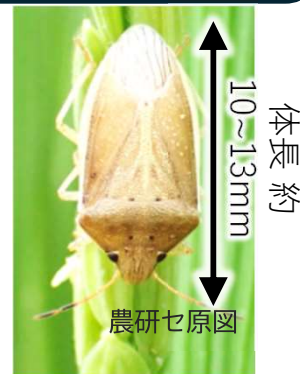
警戒
せよ

- 昨年被害がなかった地域でも油断せず、出穂期前からほ場への飛び込みを確認し、防除を行いましょ。
- イネカメムシ等の大型カメムシ類の防除には、虫に薬液を直接付着させやすい液剤の散布が最も効果的です。

●イネカメムシとは？

- 出穂期の加害は不稔を生じさせ、収量を低下させます。
- 乳熟期の加害は基部斑点米を生じさせ、品質を低下させます。
- 上三川町南部で多数の越冬成虫を確認しました。
(2026年2月 越冬量調査 → 上三川：6頭/m²、坂上：11頭/m²)

☆防除を怠ると甚大な被害が想定されますので、県の発生予察情報(裏面QRコードから入手)等を注視して防除に活かしましょう。



イネカメムシの成虫

●2026年産イネカメムシ防除方針

7月上中旬	出穂期	穂揃期	乳熟初期	乳熟後期以降	収穫後
①発生初期の把握	②薬剤防除の実施 (注1)			追加防除 (注2) 3回目 7~10日 斑点米防止	③耕うん
	薬剤散布 1回目 不稔防止	7~10日	薬剤散布 2回目 斑点米防止		秋耕
					生息場所 除去

(注1) 地域の共同防除と出穂のタイミングが合わない場合、別途ドローンによる防除や出穂7~10日前の粒剤処理(キラップ粒剤等)等の代替策を行う。

(注2) 薬剤散布2回目の後もカメムシ類の発生が確認される場合のみ実施する。

[除草] 斑点米カメムシ類の餌の除去をするため、出穂2~3週間前と出穂期に畦畔除草を実施する。



イネカメムシの幼虫

●水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤

(令和8(2026)年5月31日現在)

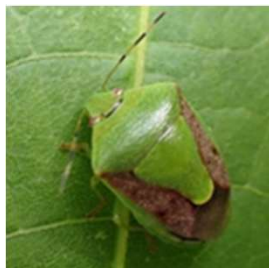
No.	農薬名	希釈倍数・使用量	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	IRACコード
1	スミチオン乳剤	1000倍	60~150L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	1B
2	キラップフロアブル	1000~2000倍	60~200L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2B
		8~16倍	0.8L/10a			空中散布	
3	キラップ粒剤	3kg/10a				湛水散布	
4	トレボンEW	1000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3A
5	スタークル液剤10	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A

- 農薬の使用前には必ずラベルを確認しましょう。
- 抵抗性発達を防ぐため、IRACコード(殺虫剤分類)が同じ農薬の連続使用は避けましょう。

果樹カメムシ類の発生と被害に注意！

今年の果樹カメムシ類の越冬量は昨年より多く、春先の高温により活動開始も早まり、5月上旬から果樹園への飛来が確認されています。

トラップ調査で、発生は平年より早く、発生数も多い傾向となっているため、防除対策を適切に実施しましょう。



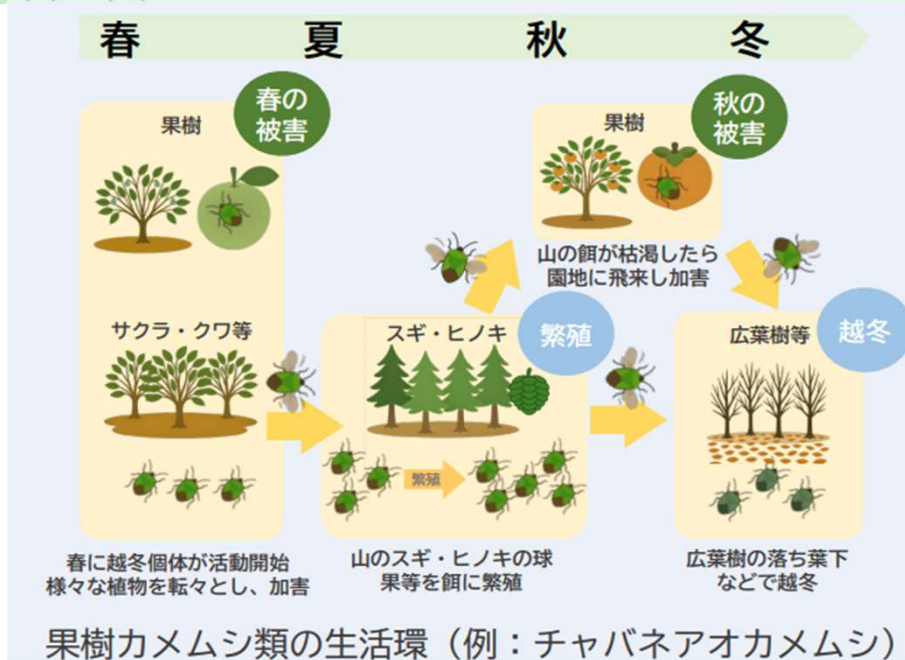
チャバネアオカメムシ



クサギカメムシ



ツヤアオカメムシ



農林水産省HPより引用

●被害を防ぐために

- 定期的なほ場観察を心がけ、**早期発見、早期防除**に努めましょう。

栃木県農業防災LINEや、当事務所及び農研センターが発信する発生予察の情報を収集し、ほ場（特に周縁部）の観察をこまめに行う。

カメムシ類の発生ピークは、例年、5月中旬～6月下旬と7月上旬～9月頃の年2回あるので、その時期は特に注意する。

- 適切に薬剤散布**を行いましょう！

ほ場への飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統、同一RACコードの連用を避ける。過度な薬剤散布はハダニ類などの発生を助長するため、飛来確認後の防除を徹底する。

- 多目的防災網設置園は、破れや隙間がないか点検しましょう。

吸汁被害果の様子



栃木県農業防災LINE
友だち登録はこちら



「カメムシ防除作戦」HP

